

巡回企画展のご案内

ものいう仕口 —白山麓で集めた民家のかけら—

Joinery - Time Capsule of Traditional Carpentry

Parts of Japanese Folk Houses Collected near Mt. Haku

会期：<大阪>2019年9月6日(金)~11月19日(火)

<東京>2019年12月5日(木)~2020年2月22日(土)

会場：LIXILギャラリー



写真 1:仕口が施された柱(部分)。樺材。200年以上前の白山麓の民家の仕口。

W209xD189xH1160 所蔵：瀧下嘉弘 撮影：長谷川健太



「建築とデザインとその周辺」をめぐり、独自の視点でテーマを発掘するLIXILギャラリーの企画展では、大阪：2019年9月6日（金）～11月19日（火）、東京：2019年12月5日（木）～2020年2月22日（土）の期間、「ものいう仕口ー白山麓で集めた民家のかげらー」を開催します。

「仕口」とは、柱と梁のような方向の異なる部材をつなぎあわせる工法とその部分のことで、日本の伝統木造建築において世界に誇る技術です。大工技術の粋として発展し、風土によって異なる民の住まいにも用いられてきました。

本展では、福井県白山麓にあった築200年以上の古民家で使われた江戸時代の仕口16点を、個々の木組みの図解説と併せ紹介します。一軒の家を支えてきた木片の素朴な美しさに触れながら、先人の優れた大工仕事をひも解きます。

開催概要

「ものいう仕口ー白山麓で集めた民家のかげらー」

Joinery - Time Capsule of Traditional Carpentry

Parts of Japanese Folk Houses Collected near Mt. Haku

会 期	<大阪>2019年9月6日（金）～11月19日（火） <東京>2019年12月5日（木）～2020年2月22日（土）
開館時間	<大阪>10：00～17：00 <東京>10：00～18：00
休 館 日	<大阪>水曜日 <東京>水曜日、年末年始
会 場	LIXILギャラリー 大阪会場：大阪市北区大深町4-20 グランフロント大阪南館タワーA 12階 東京会場：東京都中央区京橋3-6-18東京建物京橋ビル LIXIL：GINZA2階
入 場 料	無料
企 画	LIXILギャラリー企画委員会
制 作	株式会社LIXIL
協 力	瀧下嘉弘、（協）伝統技法研究会
展示デザイン	+建築設計 田代朋彦
会場グラフィック	小林すみれ

展覧会の見どころ

不規則に削られた穴や切れ込みが施された木片。簡素でおおらかなその姿には、原始的な彫刻作品に似た美しさがあります。これらは福井県白山麓の民家で使われていた江戸時代の仕口です。「仕口」とは2本の木材をホゾという突起とホゾ穴で直角または斜めにつなぐ日本の伝統技法及びその部分のことで、地方の民家にもその風土に合ったたくましい仕口の姿がありました。

建築家の瀧下嘉弘氏（1945～）は、昭和40年代から始めた白山麓周辺の古民家移築保存活動の中で、仕口に出会い収集を始めます。普段は隠れている部分が解体によって露わになり、捨てられるはずのこれらに圧倒的な存在感を見出します。瀧下氏は、手作業で刻まれた仕口の痕跡から伝わる名もなき匠の知恵と技に強く惹かれました。今は主である家を離れ、静かに佇む仕口の数々。しかし、刻まれた仕口の痕跡は、語り部となり、私たちに往時の家の姿を伝えていきます。

本展では、白山麓にあった200年以上前の民家を支えた江戸時代の仕口一堂を紹介いたします。三者三様の素朴で力強い造形美をご堪能ください。そして今回初めて、それぞれの仕口がどのように木組みされていたのかを伝統技法研究会のメンバーに推測し図解してもらいました。それらを合せて展示します。

仕口の跡に耳を澄ませてみると、精魂込めて木と向きあった先人たちの声が聞こえてくるようです。本展が、一片の仕口から見えてくる民家の構造や大工技術の奥深さに触れる機会となれば幸いです。

写真 2



写真 3

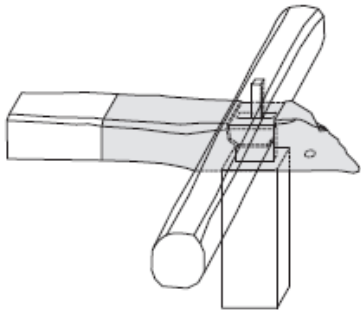


写真 4

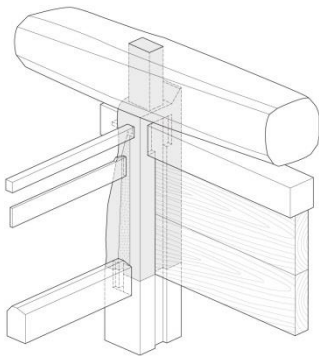


写真 5



写真 6



●主な展示と見どころ

<仕口の木片をみる>

白山麓の九頭竜川支流沿いには、かつて200～300年経た合掌屋根を持つ民家が存在していました。豪雪地帯のため、大雪に耐える太い柱があり、雪の重みで曲がった木を梁として用いていたのが特徴です。昭和30年代以降ダムの建設や都市化の影響などにより、多くが取り壊されることとなり、そのいくつかを瀧下氏は解体し、新たな場所に移築再建させてきました。その際、木材に施された仕口部分は不要となることも多く、廃棄されていました。瀧下氏はそれら仕口の醸し出す神秘的な力に惹かれこれまでに50点近くを拾い上げ保存してきました。今展ではそのうち選りすぐりの16点を紹介します。（写真1,2）普段は隠れて目にするのでできない仕口の迫力や木材の表情など、現物で味わうまたとない機会です。

<仕口を読み解く>

今回、民家を調査・研究している伝統技法研究会の協力のもと、これらの仕口がどのように組み立てていたのかを、ホゾやホゾ穴の痕跡から推測し図解してもらいました。

（写真2）は松材の梁の一部です。上部の小さな穴は大工によるものではなく、木こりが大木を切り出し、その材を山から滑らせ引いてくるための穴跡といえます。ホゾ穴の形状を見比べてみても、荒々しく無造作に開けたもの、鑿（ノミ）で丁寧に削られたものなど手の違いを感じることができるでしょう。図解（写真3）では、（写真2）が横に使われ、小屋梁の木片だったことを示しています。ホゾ穴に柱を差し、さらに上に梁を交差させる木組みで外壁側の桁の部分に用いられていました。

（写真4）は、（写真1）を図解したものです。柱の上部のホゾは太い梁と組み、ホゾ穴の形状から一方は仕切板がはまり（右）、もう一方は土壁（左）だったことが推測できるといいます。

<主な大工道具>

200～300年前は大工道具の種類も限られた中で、先人たちは丸太から木を伐り出し、仕口を施し組み上げ民家を完成させてきました。数少ない道具でこれらの大仕事を成し遂げてきたことは驚きでもあります。瀧下氏は棟梁から使わなくなった大工道具も譲り受け保存してきました。（写真5）は、丸太状の木材を四角に削るチョウナと呼ばれる道具で、古代から使われていたと言われていています。その他、鉋や鑿など基本的な大工道具5種類を紹介します。

<仕口の写真>

瀧下氏が最初に手掛けた古民家移築は自邸でした。もとは福井県のある村にあった合掌造の庄屋で、1734年に組み上げられたものでした。天井の高さは4mにも及び、雪の重みで曲がった材を梁に利用しています。梁と柱の関係性や使われ方など、本来の仕口はどのように収まり見えるのか、瀧下邸を例に写真でご覧いただけます。

リリース用画像

本リリースに掲載された画像(写真1~9)の送付をご希望の際は、メールにて担当者までお問い合わせ下さい。
<https://www.livingculture.lixil/topics/gallery/g-1909/>

写真7



写真8



写真9



【写真キャプション・クレジット】

写真2：梁（部分）松材 上部の穴は木こりが付けたもの。 W320×D330×H1365mm 所蔵：瀧下嘉弘 撮影：長谷川健太

写真3：写真2を図解した仕口解説図。ホゾ穴から梁と柱の木組みのようすが分る。 作図：（協）伝統技法研究会

写真4：写真1を図解した仕口解説図。天井に繋がる柱上部で、ホゾは太い梁と組み、ホゾ穴の形状から柱は仕切板と土壁がはまる。

作図：（協）伝統技法研究会

写真5：チョウナ。丸太状の木材を四角に削る道具。 所蔵：瀧下嘉弘 撮影：長谷川健太

写真6：瀧下邸内部で居間の天井部分。梁と柱が仕口によって組まれている。 撮影：長谷川健太

写真7：長さ4メートルほどの柱の一部と思われる。W260×D250×H1580mm 所蔵：瀧下嘉弘 撮影：長谷川健太

写真8：瀧下邸内部。樫の梁が柱の仕口に貫通し、中央のホゾ穴に差しした鼻栓で固定されている。 撮影：長谷川健太

写真9：瀧下邸の屋根裏。杉の丸太の合掌尻が妻梁に差ししてある。 撮影：長谷川健太

関連企画のご案内

大阪イベント

〔講演会〕古民家移築を手がけてー仕口から見えてくるもの **終了しました**

日時 2019年10月12日（土）14：00～15：30

講師 瀧下 嘉弘（建築家、日本古民家保存協会代表）

会場 LIXIL ショールーム大阪 セミナールーム

大阪市北区大深町4-20 グランフロント大阪南館タワーA 11階

費用 無料（※要予約、定員70名）

予約方法 電話もしくはホームページから

内容

瀧下嘉弘氏は、約50年にわたって古民家の移築保存活動を続けてこられました。生まれ育った白山麓周辺の古民家がダム建設で取り壊されることを知り、安価で譲り受けたことがこの道に進むきっかけだったといいます。なぜ仕口にこれほど魅力を感じてこられたのか。実際に移築現場の経験で得られた知識などを通して、コレクションした経緯や、そこで出会った仕口からどのようなことが読み解けるのかお話しさせていただきます。

東京イベント

〔講演会〕 福井の農民の家 -古民家を読み解く-

日 時 2020年1月31日(金) 18:30~20:00

講 師 福井宇洋 (越前古民家研究所代表)

会 場 AGC Studio (東京都中央区京橋 2-5-18 京橋創生館 2F)

費 用 無料 (※要予約、定員 80名)

予約方法 電話もしくはホームページから

内 容

希少となりつつある日本の伝統的な民家には風土によって多様な姿が見られます。今回はその中で越前地方の民家を調査、研究された福井氏にその詳細をお話していただきます。今展で展示している「仕口」の里、白山麓地域はこれまでダムの建設で資料入手が困難なエリアでしたが、同展を機に調査をされました。それについても触れていただきます。古民家の見方、楽しみ方を知る好機となるでしょう。

| 新刊 LIXILブックレットのご案内 |

LIXIL BOOKLET 『ものいう仕口ー白山麓で集めた民家のかげらー』

好評発売予定 (72 ページ、本体価格 1,800 円)

| お問い合わせ |

LIXIL ギャラリー (<https://www.livingculture.lixil/gallery/>)

大阪会場／高橋麻希 東京会場／笥天留、村木玲美

xbn@lixil.com

LIXIL は、創業期のクラフトマンシップを今に語り継ぎ、常に建築家やデザイナーと手を携え、機能性と洗練された美しさの融合を追求してきました。それこそが、私たちが掲げる「LIVING CULTURE」というコンセプトです。私たちはミュージアム、ギャラリー、資料館および出版活動を柱とした文化活動を通して、ものづくりの技と心を次世代に伝え、斬新なアイデアを発信する場を提供し、LIVING CULTURE を表現していきます。LIXIL は、ものづくりにこだわり、ライフスタイルや時代に合った美しく機能的な製品を作り続けることで世界中の人びとの豊かで快適な住生活の未来に貢献していきます。